

生成AIによる問題生成を用いたみだりな記事拡散防止 システムの開発

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

Y220049 足立琢朗

担当教員 樋口三郎

背景

- インターネットの普及による偽情報・誤情報の蔓延
- 特に記事はタイトルの誇張（クリックベイト）によって内容理解が十分でないままみだりに拡散されてしまうことがある
- 情報拡散者が法的責任を問われる可能性

本研究における用語の定義

- 偽情報
→記事そのものが虚偽
- 誤情報
→記事そのものは虚偽ではないが誤解を招く記事
- クリックベイト
→誇張されたタイトルや、本文の内容を適切に反映していないタイトル

システムの画面(1/2)

フジテレビとフジ・メディアHD、日枝久相談役が退任 経営体制を大幅刷新

フジテレビとその親会社であるフジ・メディア・ホールディングスは27日、日枝久（ひえだ ひさし）取締役相談役が両社の取締役相談役を退任し、両社の代表を辞任すると発表した。また、フジテレビとフジ・メディア・ホールディングスは取締役の人数を大幅に減らすなど経営体制を大幅に変えることも発表した。フジ・メディア・ホールディングス公式ページには今回の経営体制の変更について「取締役会の実効性を強化するとともに意思決定の迅速化を図るため、取締役数を減員する」「取締役会の年齢面での多様性も考慮し、50歳代以下の人材の新たな起用を進め、取締役の平均年齢を大幅に引き下げる」という意図があるという。この経営体制の変更により、フジテレビの取締役は15人のうち10人が退任し、新たに6人を選任。フジ・メディア・ホールディングスの取締役は今年6月までに4人が退任し、6人が選任される。また、フジテレビの取締役の平均年齢はこれまでより8歳ほど若返った59.5歳、フジ・メディア・ホールディングスの取締役の平均年齢はこれまでより10歳ほど若返った61.6歳となっている。

公開日: 2025-03-27

この記事拡散する場合、下記クイズへの回答が必要です。

理解度チェッククイズ

第1問：記事によると、日枝久取締役相談役はフジテレビとフジ・メディア・ホールディングスの代表を辞任することを発表した。

○
×

第2問：記事によると、フジ・メディア・ホールディングスは経営体制の変更で取締役数を増員することを決定した。

○
×

理解度チェッククイズ

記事によると、日枝久取締役相談役はフジテレビとフジ・メディア・ホールディングスの代表を辞任することを発表した。

○

×

×

第3問：記事によ

○

×

第4問：記事によ

○

×

第5問：この記事は、フジテレビとフジ・メディア・ホールディングスが日枝久相談役の退任を発表し、取締役の大幅な若返りと数の減少による経営体制の刷新を図る意図を示している。この要約は正しいと言える。

○

×

回答を送信

トップへ戻る

生成AIによる問題生成を用いたみだりな
記事拡散防止システムの開発

システムの画面(2/2)

裁判所、“説明なく”死刑判決 突然の裁判終了に広がる不信感

1月28日、2019年7月18日に発生した京都アニメーション放火殺人事件にて36人殺害、32人に重軽傷を負わせたなどの罪に問われ、第一審にて死刑判決を受けた被告人が控訴を27日付けで取り下げたことが明らかとなった。大阪高等裁判所は刑事事件の裁判を終了とし、第一審の死刑判決が確定した。なお、控訴を取り下げの理由は明らかになっていない。裁判では、被告人の責任能力の有無が争点となり、一番の京都地方裁判所は責任能力を認めた上で、36人殺害という重大性も考慮し死刑判決を言い渡した。これを受けて被告人は不服として控訴し、第二審では精神鑑定に関する地裁の判断が誤っていたとして無罪を訴える方針だった。高等裁判所によれば、弁護士は控訴取り下げの無効を申し立てることが可能で、過去には弁護士が無効を主張して最高裁まで争った例もある。被告人の弁護士側がどのように対応するかが注目されている。取り下げを受けて京都アニメーション代理人弁護士は「会社としてのコメントは差し控える」と発表。犠牲者の遺族は、「死刑判決が確定しても事件に終わりはない」「死刑が執行されても、犠牲者は戻ってこない」などと語った。

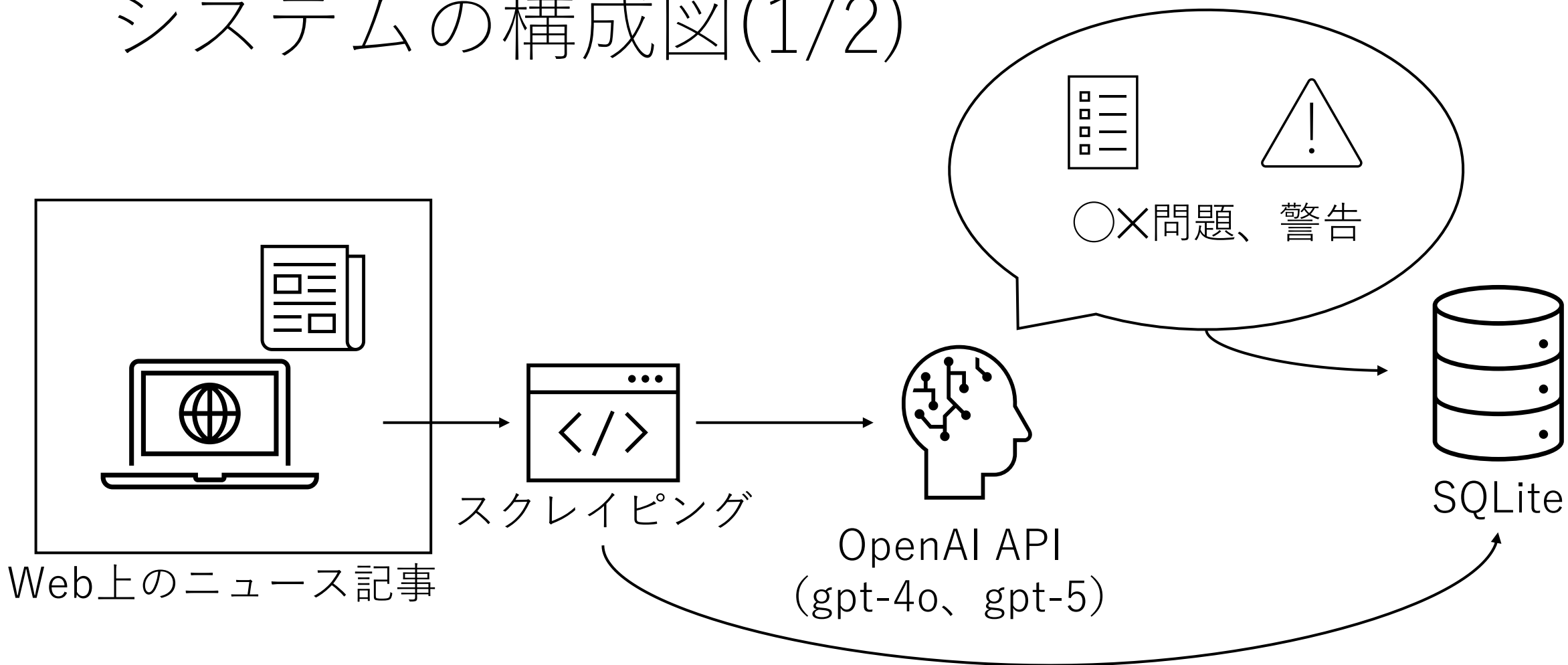
⚠ この記事のタイトルと内容が一致していない可能性があります。記事の内容に注意してください。

公開日: 2025-01-29

この記事を広散する場合、コメントへの回答が必要です。

⚠ この記事のタイトルと内容が一致していない可能性があります。記事の内容に注意してください。

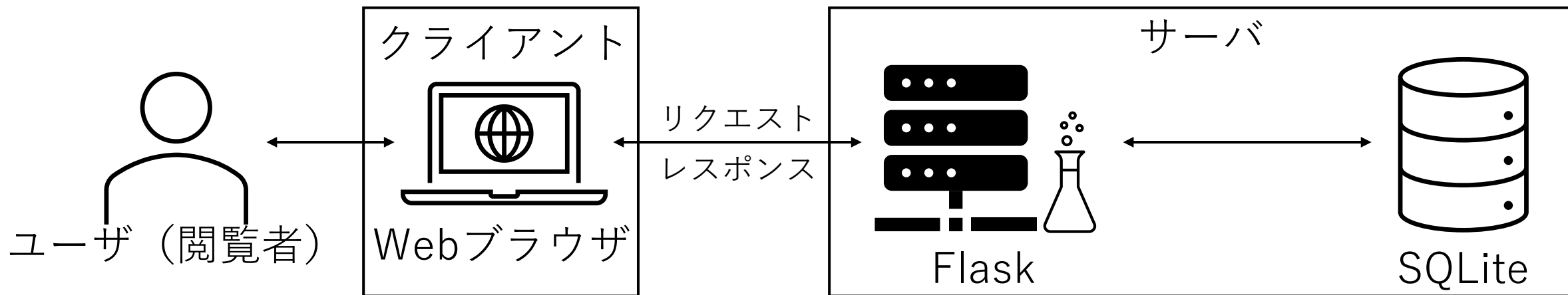
システムの構成図(1/2)



スクレイピング…Webサイト上の情報を抽出する技術

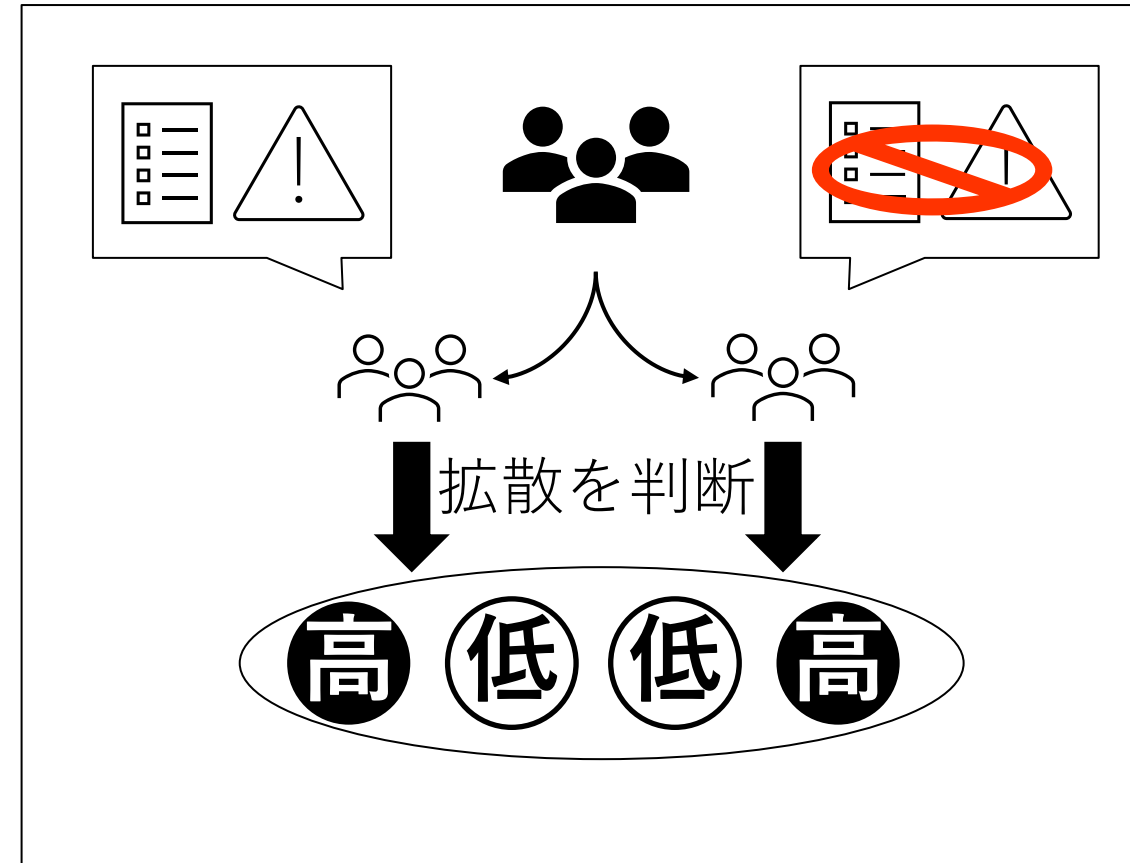
生成AIによる問題生成を用いたみだりな
記事拡散防止システムの開発

システムの構成図(2/2)



評価方法

- 同研究室の学生15名を被験者として実施
- 被験者に4つの記事の拡散を判断させる
- 被験者は二分
 - ○×問題有、警告有
 - ○×問題無、警告無

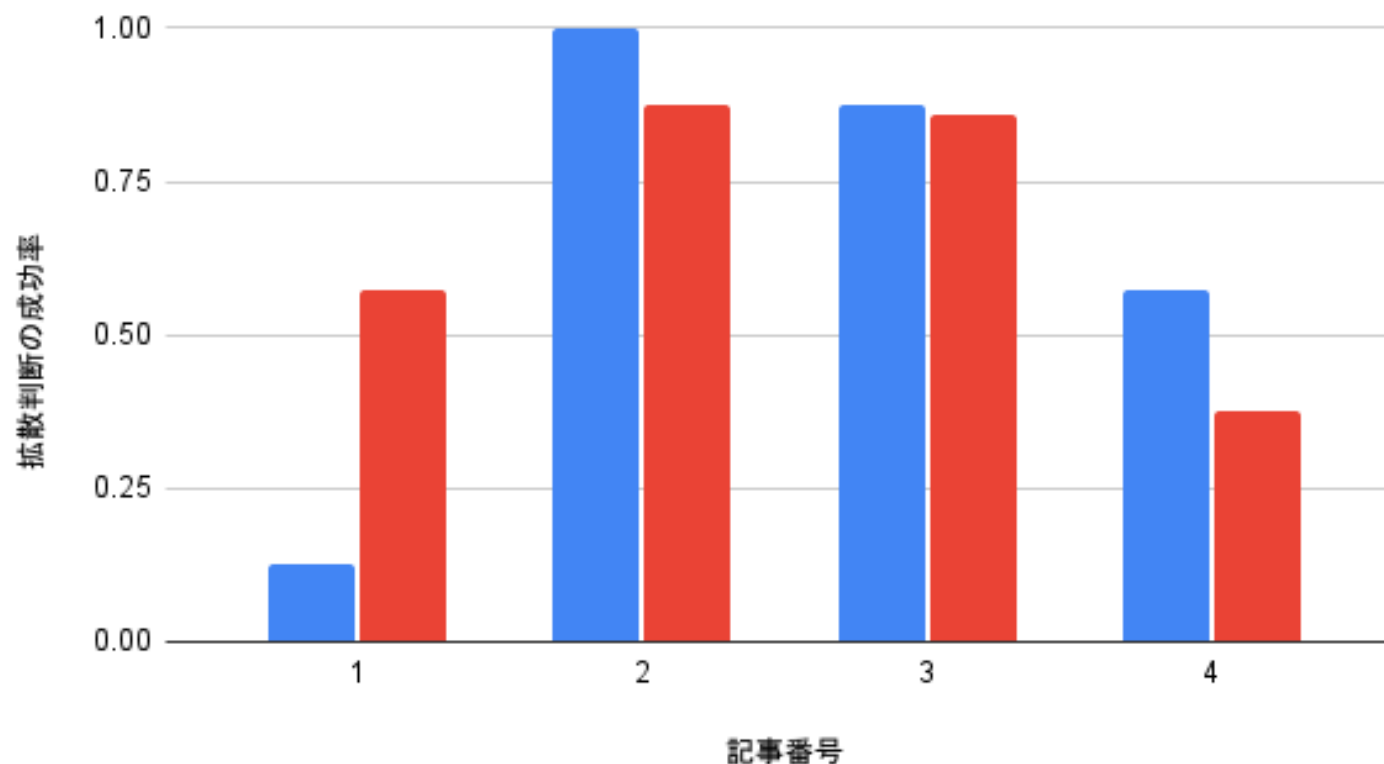


高 = クリックベイト性の高い記事

低 = クリックベイト性の低い記事

評価結果(1/2)

青：○×問題有、警告有 赤：○×問題無、警告無

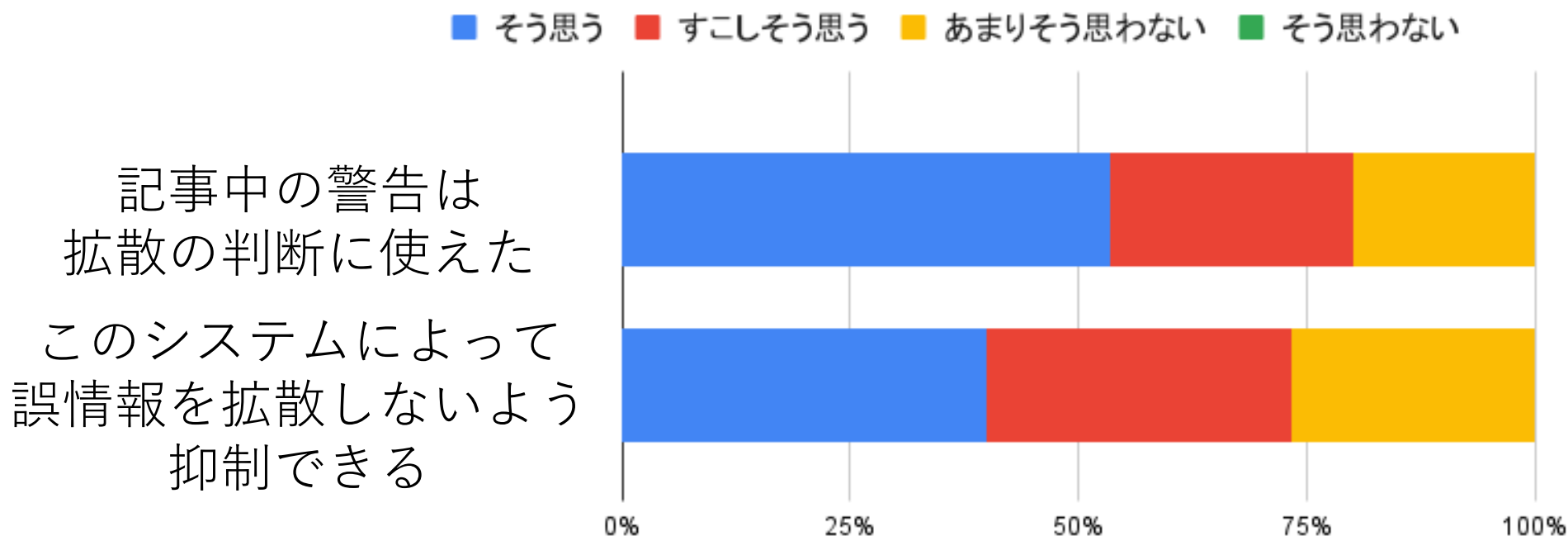


記事番号1、4がクリックベイト性の高い記事

記事番号2、3がクリックベイト性の低い記事

生成AIによる問題生成を用いたみだりな
記事拡散防止システムの開発

評価結果(2/2)



どちらも肯定的評価

生成AIによる問題生成を用いたみだりな
記事拡散防止システムの開発